

清水町
地球温暖化対策実行計画

第4版

令和7年4月

清水町

はじめに



清水町は、静岡県の一部、伊豆半島のつけ根に位置しており、南北に約 4.54 km、東西に約 2.7 km、総面積は 8.81 ㎢の県内では最も面積の小さな町です。富士山の恵みである日量約 110 万トンの湧水量を誇る国指定天然記念物「柿田川」が町のシンボルになっているほか、伊豆半島を縦断する雄大な狩野川があり、みどりが豊かな自然と共生した町です。また、国道一号が町の北部を通過し、東名高速自動車道沼津 IC や JR 東海道新幹線三島駅にも近く、広域的な交通の要衝地として位置するとともに、ショッピングセンターなどの大規模複合型施設の建設により県東部地域の商業拠点にもなっています。

近年、地球温暖化が原因とされる気候変動の影響により、猛暑、豪雨等による甚大な自然災害が世界全体や各地域において発生しており、人々の生命や暮らしの安心安全を確保するための対策が求められています。

こうした背景を踏まえ、日本では、2050 年までに温室効果ガス排出量を実質ゼロ（カーボンニュートラル）とする、脱炭素社会の実現を目指すことを宣言しました。また中期目標として、2030 年度において温室効果ガスを 2013 年度から 46%削減することを目指しています。

清水町においては、平成 14 年 4 月に「清水町役場の地球温暖化対策 地球にやさしい率先行動実行計画」を策定し、それ以降平成 21 年に第 2 期、令和 2 年に第 3 期計画を策定し環境施策を進めてきました。本計画は、「第 5 次清水町総合計画」に掲げる環境関連施策、さらには「清水町環境基本計画」における各種施策及び取組との連携により推進してまいります。

今後は、第 4 期計画である清水町地球温暖化計画第 4 版に基づき、清水町役場における温室効果ガス排出削減目標の達成とともに、町民・事業者の積極的な取組の推進を図るため、環境施策・職員の自主的で率先的な活動を推進します。

目 次

はじめに

第1章 計画の基本的事項	1
1 計画の目的	
2 計画の期間	
3 計画の対象範囲	
4 対象となる温室効果ガス	
第2章 温室効果ガス排出の現状と削減目標	2
1 温室効果ガス排出の現状	
2 温室効果ガス排出量の算定方法	
3 温室効果ガス排出量の推移	
4 温室効果ガス排出量の削減目標	
第3章 計画の推進	4
1 推進体制	
2 推進方法	
3 取組の実践	
第4章 計画の進行管理	6
1 点検・評価	
2 改善への見直し	
3 進捗状況の公表	
資料編	7
資料1 対象施設・車両等	
資料2 温室効果ガス算出に係る係数及び地球温暖化係数	
資料3 環境配慮・負荷項目チェックシート	

第1章 基本的事項

1 計画の目的

本計画は、第3期の実行計画を引き継ぎ、地球温暖化対策に資するため、役場自らの事務事業等に伴い排出される温室効果ガスの削減を図るとともに、役場が率先して地球温暖化対策の取組を実行することにより、住民や事業者の主体的な取組を促進することを目的とします。

2 計画の期間

令和7年(2025年)度から令和12年(2030年)度までの6年間を第4期計画期間とします。

項 目	年 度							
	2013	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030
期間中の事項	基準 年度	第3期 計画	第4期 計画 開始					目標年度 (計画見直し)
計画期間								

3 計画の対象範囲

町が行う事務事業のうち、次項の温室効果ガスを排出する別紙に掲げる施設等を対象とします。

外部への委託や請負等（指定管理者制度等）により行う事務事業等は、本計画の対象外としますが、排出抑制のための措置を講じるよう協力を求めています。

*対象組織・施設・車両等は資料1参照

4 対象となる温室効果ガス

地球温暖化対策の推進に関する法律に定められた温室効果ガスのうち、次に掲げる温室効果ガスを対象とします。

温室効果ガスの種類	算定対象となる排出源
二酸化炭素 (CO ₂)	・燃料の使用 ・ガスの使用 ・電気の使用
メタン (CH ₄)	・公用車の走行 ・浄化槽の使用
一酸化二窒素 (N ₂ O)	・公用車の走行 ・浄化槽の使用
ハイドロフルオロカーボン (HFC)	・カーエアコンの使用

*温室効果ガス算出に係る係数・温暖化係数は資料2参照

第2章 温室効果ガス排出の現状と削減目標

1 温室効果ガス排出の現状

対象となる施設から排出される温室効果ガスの平成25年度排出量（基準値）は、次のとおりです。

○温室効果ガス総排出量 1,219,966.5 kg-CO₂

燃料の燃焼等に伴う二酸化炭素排出量				単位kg-CO ₂
	車両	機械等	電気	総排出量
25年度実績	25,475.8	238,910.8	948,157.0	1,212,543.6

メタン排出量

	公用車の走行	浄化槽
25年度実績	1.2 kg-CH ₄	164 kg-CH ₄
CO ₂ 換算	31.1 kg-CO ₂	4,100.5 kg-CO ₂

一酸化二窒素排出量

	公用車の走行	浄化槽
25年度実績	3.0 kg-N ₂ O	6.4 kg-N ₂ O
CO ₂ 換算	885.4 kg-CO ₂	1,905.4 kg-CO ₂

ハイドロフルオロカーボン排出量

	公用車の使用
25年度実績	0.35 kg-HFC
CO ₂ 換算	500.5 kg-CO ₂

2 温室効果ガス排出量の算定方法

本計画では、次に掲げる算式により温室効果ガス排出量の把握及び二酸化炭素換算を年度ごとに行います。

◎温室効果ガス排出量＝活動量×係数

◎温室効果ガス二酸化炭素換算＝温室効果ガス排出量×地球温暖化係数

＊温室効果ガス算出に係る係数及び地球温暖化係数は資料2参照

3 温室効果ガス排出量の推移

本町の対象施設における温室効果ガス総排出量の推移は、次のとおりです。

※浄化槽から排出されるメタン、一酸化二窒素及びカーエアコン使用によるハイドロフルオロカーボンを除く

排出量	平成25年度 基準年度 (t-CO ₂)	平成30年度 CO ₂ 排出量 (t-CO ₂)	令和4年度 CO ₂ 排出量 (t-CO ₂)	令和5年度	
				CO ₂ 排出量 (t-CO ₂)	基準年度比 (増減率)
車両	26.4	24.9	19.3	21.1	-5.3 (-20.1%)
機械等	238.9	127.0	203.8	205.3	33.6 (14.1%)
電気	948.2	1,008.3	1,150.8	1,090.5	142.3 (15.0%)
合計	1,213.5	1,160.2	1,373.9	1,316.9	103.4 (8.5%)

令和5年度の二酸化炭素排出量は1,316.9 t-CO₂であり、令和4年度(1,373.9 t-CO₂)

O₂) と比べ 4.1%減少となっていますが、本計画における基準年度（平成 25 年度）と比較すると、8.5%増加となっています。

増加の主な要因は、電気使用量の増加によるものであり、これは令和元年度から町内小中学校に導入が始まったエアコンの使用や令和 2 年 7 月に開館した複合施設（旧図書館、保健センター）によるものと考えられます。

4 温室効果ガス排出量の削減目標

本計画で削減する温室効果ガスの目標は、基準年度に比べて 50%減とし数値等は次のとおりです。

○基準年の温室効果ガス排出量：1,219,966.5 kg-CO₂

＊このうち浄化槽から排出されるメタン、一酸化二窒素及びカーエアコン使用によるハイドロフルオロカーボンを除く、1,213,460.1 kg-CO₂ を削減対象とする。

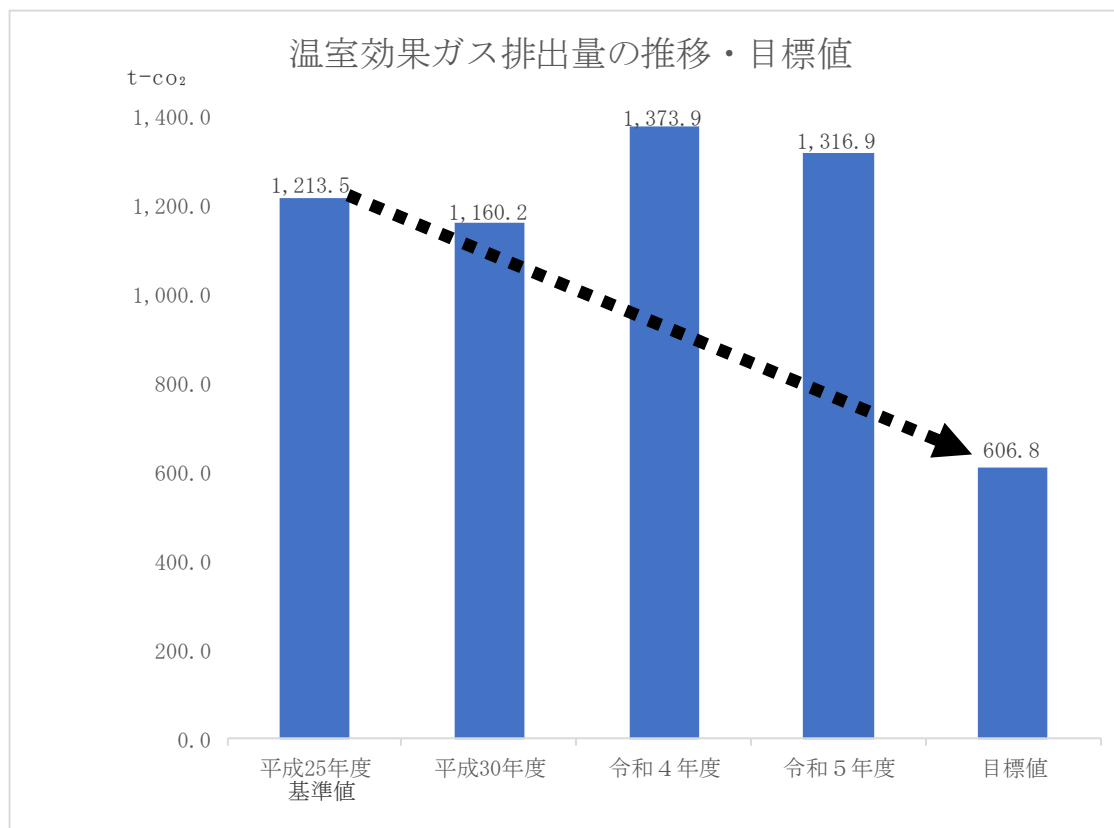
○目標値：606,730.1 kg-CO₂ 50%削減

○基準年度：平成 25 年度（2013 年度）

個別目標

単位：kg-CO₂

	車両	機械等	電気	総排出量
基準値	26,392.3	238,910.8	948,157.0	1,213,460.1
目標値	13,196.1	119,455.4	474,078.5	606,730.0
削減値	13,196.2	119,455.4	474,078.5	606,730.1



第3章 計画の推進

1 推進体制

本計画の推進に関する取組は、次の体制により役場全体で推進します。

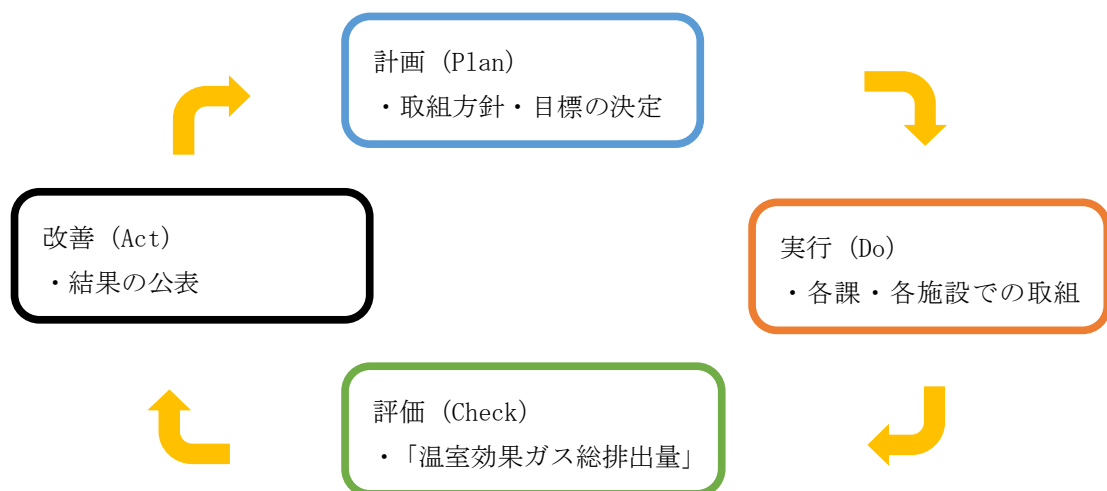
推進体制の責任者等			役割
統括者		町長	計画の推進方針決定 実績報告の受理 計画全体の評価
推進管理委員会	統括者補佐	副町長 教育長	統括者の補佐・代理 実施状況の把握
	管理者	くらし安全課長 教育総務課長	計画の管理 目標の検討・決定 統括者への報告・結果の公表 所管実行組織の統括
	管理者補佐	くらし安全課長補佐 教育総務課長補佐	実行組織への指示 所管実行組織の統括の補佐 管理者の補佐
実行組織	責任者	課長・局長・施設長等 ＊資料1に掲げる実行組織長	実行組織所管施設等の適正管理 実行組織内の教育・訓練 取組の評価
	推進員	実行組織に1人以上	責任者の補佐 取組の点検・記録
	実行員	職員（嘱託・臨時職員含む）	責任者の指示による活動の推進

＊必要に応じ推進管理委員会を開催し実行組織への指示等を検討します。

＊管理者が所管する実行組織は、資料1のとおりとします。

2 推進方法

本計画の推進は、『Plan』『Do』『Check』『Action』のサイクルによる継続した取組を推進します。



3 取組の実践

(1) 温室効果ガス排出（目標対象項目）に関する取組

○電気使用量の削減

- ☐ PC の省エネルギーモードへの切替の徹底
- ☐ クールビズ・ウォームビズの推進（空調機器の適正管理・適正な被服等）
- ☐ 業務に支障のない範囲（照度基準：JIS）での消灯
- ☐ 職員の移動時におけるエレベーターの使用は原則禁止

○ガス使用量（LPG・都市ガス）の削減

- ☐ 効率的な使用に努め、劣化等は速やかに修繕等を行う。
- ☐ 使用時間を定めるなど、継続的な運転を極力避ける。

○公用車燃料使用量の削減

- ☐ エコドライブを推進し無駄な燃料消費を抑える。
- ☐ 短距離の移動は、公用自転車を活用し公用車の使用を抑える。
- ☐ 長距離の移動は、低燃費車を優先利用し燃料の使用を抑える。
- ☐ 相乗りを励行し燃料の使用を抑える。

○機械等の燃料使用量の削減

- ☐ 計画的な使用に努め無駄な燃料の消費を抑える。
- ☐ 効率的な運転・適正な管理の実施により燃料を削減する。

(2) 環境に配慮した取組

○環境に関連する事業等の取組

- ☐ 本来業務において、環境負荷の低減が期待できる取組や温室効果ガスの削減に効果がある取組について、実行組織ごと 1 つ以上の計画を立て実施する。
- ☐ 環境負荷の大きな事業等については、環境負荷の低減を図るための措置を計画する等、計画的且つ効率的な事業実施により環境負荷の低減を図る。

○ごみの減量化・資源の有効利用の推進

- ☐ 3 R を推進し、役場から排出されるごみの減量に努める。
- ☐ 裏面利用可能な用紙を再利用し、事務用紙の削減に努める。
- ☐ F A X 用紙は業務に支障のない範囲で裏面利用可能紙を使用する。
- ☐ 資源化可能な物は分別し、再資源化を図る。

○節水活動の推進

- ☐ 節水コマの設置等により使用量の削減に努める。
- ☐ ため洗い等を推進し使用量の削減に努める。
- ☐ 漏水等の点検を行い適正な管理を実施する。

(3) 資材の購入や工事での取組

○環境に配慮した機器等の購入（グリーン購入の推進）

- ☐ 機器の購入時は環境配慮製品を積極的に導入する。
- ☐ 消耗品等はグリーン購入に努める。
- ☐ 事務用紙等の購入・パンフレット・印刷物等の作成は、原則、古紙配合率 70% 以上、白色度 80% 以下の用紙とする。

○環境に配慮した公共工事の推進

- 公共工事においては、工事中の温室効果ガス排出の削減のため、効率的な工事計画を立てると共に、公共工事請負業者に対し省エネルギー機器の利用、低公害車等の使用等について働きかける。

○公共施設の脱炭素化の取組等の推進

- 建築物の建築等については省エネルギー機器の導入、再生可能エネルギーの導入を心がけ ZEB の実現に努める。
- 町有施設（既存・新設）の LED 照明の導入に努める。

第4章 計画の進行管理

1 点検・評価

(1) 温室効果ガス排出（目標対象項目）に関する取組

○点検

- ・温室効果ガスの排出に関連する燃料等の消費量をチェックシートに毎月記入し、消費量の増減、活動状況等を点検します。

○評価

- ・半期に一度、点検した内容に基づき実施手順・使用量等の評価を行います。評価の結果は、全職員等に周知し、率先的な取組の推進を図ります。

(2) 環境に配慮した取組

○点検

- ・実行組織ごと目標とした取組について、半期に1回以上確認し状況等を点検します。

○評価

- ・点検後概ね30日以内に取組手順・目標の達成度等を評価し、結果について実行組織内で公表し取組の推進を図ります。

*環境配慮の取組及び各チェックシートは資料3参照

2 改善への見直し

計画の円滑な推進を図るため、点検結果や進捗状況をもとに、必要に応じて計画の見直しを行います。

3 進捗状況の公表

本計画に係る進捗状況（温室効果ガスの削減状況・環境に配慮した実行組織ごとの取組）について、ホームページで公表します。

対象施設・車両等

資料1

対象施設等

管理者	実行組織	保有施設等	電気	ガス	ガソリン	軽油	灯油	取組
くらし安全課長	総務課	本庁舎	○					○
		車両	○		○			
	企画課							○
	税務課	車両			○			○
	住民課	車両			○			○
	産業観光課	車両			○			○
		機械			○			
	くらし安全課	防災センター	○	プ				○
		車両			○	○		
	健幸づくり課	複合施設	○	プ・都				○
		車両			○			
	福祉介護課	車両			○			○
	建設課	車両			○	○		○
	都市計画課	車両			○			○
	会計課							○
	議会事務局	車両			○			○
教育総務課長	こども未来課	清水保育所	○	都				○
		南保育所	○	プ				
		清水幼稚園	○	プ				
		北幼稚園	○	都				
		南幼稚園	○	都				
		西幼稚園	○	プ				
		子育て総合支援センター	○					
		こども交流館	○					
	教育総務課	清水小学校	○	都	○		○	○
		清水小学校給食		都			○	
		南小学校	○	都	○		○	
		南小学校給食		都				
		西小学校	○	都	○		○	
		西小学校給食		都				
		清水中学校	○	都	○		○	
		清水中学校給食		都				
		南中学校	○	プ	○		○	
		南中学校給食		プ				
		車両	○		○			

	社会教育課	地域交流センター	○					
		車両			○			○

注) プ：プロパンガス 都：都市ガス

注) 外部への委託等による施設は、本計画の対象外とする。

保有車両

課名	車両名称		
	ガソリン燃料車	軽油燃料車	電気自動車
総務課	●10 人乗ワゴン●7 人乗ワゴン●アクア ●軽ワンボックス 4483●ノア（町長車） 【5 台】		電気 EV
税務課	●軽バン 7591●軽バン 6188【2 台】		
住民課	●軽バン 8696【1 台】		
産業観光課	●軽バン 5689●軽トラ 4090【2 台】		
くらし安全課	●軽トラ 1800●軽トラ 1801●交通指導車 ●軽バン 1541●エクストレイル【5 台】	●塵芥ダンプ【1 台】	
健幸づくり課	●幌付きトラック●シエンタ【2 台】		
福祉介護課	●軽バン 6189●ミラ 8690【2 台】		
建設課	●軽バン 2238●水防車●道路パト【3 台】	●ダンプ【1 台】	
都市計画課	●軽バン 3118●ワゴン R●軽トラ 734【3 台】		
教育総務課	●プリウス 7151（教育長車）【1 台】		電気 EV
社会教育課	●軽バン 450●軽バン 2079【2 台】		
議会事務局	●プリウス 3986（議長車）【1 台】		

温室効果ガス算出に係る係数

○二酸化炭素

燃料の燃焼に伴う排出	係数	活動量
ガソリン	2.32 (kg-CO ₂ /l)	総排出量算定期間に本来の用途に従って使用された当該燃料の量
灯油	2.49 (kg-CO ₂ /l)	
軽油	2.58 (kg-CO ₂ /l)	
液化石油ガス (LPG)	3.00 (kg-CO ₂ /kg)	
都市ガス	2.23 (kg-CO ₂ /Nm ³)	

他人から供給された電気の使用に伴う排出	係数	活動量
電気	0.555 (kg-CO ₂ /kWh)	総排出量算定期間において使用された他人から供給された電気の量

○メタン

自動車の走行に伴う排出	係数	活動量
ガソリン／乗用車	0.000010 (kg-CH ₄ /km)	総排出量算定期間中における当該車両 1 台当たりの走行量
ガソリン／軽乗用車	0.000010 (kg-CH ₄ /km)	
ガソリン／普通貨物車	0.000035 (kg-CH ₄ /km)	
ガソリン／小型貨物車	0.000015 (kg-CH ₄ /km)	
ガソリン／軽貨物車	0.000011 (kg-CH ₄ /km)	
ディーゼル／乗用車	0.000020 (kg-CH ₄ /km)	
ディーゼル／普通貨物車	0.000015 (kg-CH ₄ /km)	
ディーゼル／小型貨物車	0.000076 (kg-CH ₄ /km)	

浄化槽の使用に伴う排出	係数	活動量
全ての浄化槽	0.59 (kg-CH ₄ /人)	対象浄化槽処理対象人員

○一酸化二窒素

自動車の走行に伴う排出	係数	活動量
ガソリン／乗用車	0.000029 (kg-N ₂ O/km)	総排出量算定期間中における当該車両 1 台当たりの走行量
ガソリン／軽乗用車	0.000022 (kg-N ₂ O/km)	
ガソリン／普通貨物車	0.000039 (kg-N ₂ O/km)	
ガソリン／小型貨物車	0.000026 (kg-N ₂ O/km)	
ガソリン／軽貨物車	0.000022 (kg-N ₂ O/km)	
ディーゼル／乗用車	0.000007 (kg-N ₂ O/km)	
ディーゼル／普通貨物車	0.000014 (kg-N ₂ O/km)	
ディーゼル／小型貨物車	0.000009 (kg-N ₂ O/km)	

浄化槽の使用に伴う排出	係数	活動量
全ての浄化槽	0.023 (kg-N ₂ O／人)	浄化槽処理対象人員

○ハイドロフルオロカーボン

カーエアコン使用に伴う排出	係数	活動量
自動車用エアコン	0.010 (kg-HFC／台・年)	公用車台数

地球温暖化係数

温室効果ガス	地球温暖化係数
二酸化炭素	1
メタン	28
一酸化二窒素	265
ハイドロフルオロカーボン※	1,300

注) ハイドロフルオロカーボンは物質群の総称であり、地球温暖化係数についてはカーエアコンに封入されている代表的なものである HFC-134a の係数を用いる。

環境配慮・負荷項目チェックシート

資料 3

組織別環境配慮の取り組み										課名		
取り組み												
目的												
対象等												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
手順 (手段)												
実績	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	上期						下期					
目標												
目標の 達成状況												
評価												

温室効果ガス排出量チェックシート										課名		
対象ガス	■電気の使用に伴う排出 二酸化炭素排出量の削減											
対象施設												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
手順 (手段)												
実績	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
累計	0.0kw			0.0kw			0.0kw			0.0kw		
二酸化炭素 排出量換算	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	0.0kg-CO2	0.0kg-CO2	0.0kg-CO2	0.0kg-CO2	0.0kg-CO2	0.0kg-CO2	0.0kg-CO2	0.0kg-CO2	0.0kg-CO2	0.0kg-CO2	0.0kg-CO2	0.0kg-CO2
累計	0.0kg-CO2			0.0kg-CO2			0.0kg-CO2			0.0kg-CO2		
手段の 実施状況												
目標値	目標値【2025年度】						目的値【2030年度】					

温室効果ガス排出量チェックシート										課名		
対象ガス	■燃料の燃焼に伴う排出【ガソリン】 二酸化炭素排出量の削減											
対象車両 対象機器	対象	数										
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
手順 (手段)												
実績	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
累計	0.0%			0.0%			0.0%			0.0%		
二酸化炭素 排出量換算	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	0.0kg-CO2	0.0kg-CO2	0.0kg-CO2	0.0kg-CO2	0.0kg-CO2	0.0kg-CO2	0.0kg-CO2	0.0kg-CO2	0.0kg-CO2	0.0kg-CO2	0.0kg-CO2	0.0kg-CO2
累計	0.0kg-CO2			0.0kg-CO2			0.0kg-CO2			0.0kg-CO2		
手段の 実施状況												
目標値	目標値【2025年度】						目的値【2030年度】					

温室効果ガス排出量チェックシート										課名		
対象ガス	■燃料の燃焼に伴う排出【軽油】 二酸化炭素排出量の削減											
対象車両	対象	数										
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
手順 (手段)												
実績	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
累計	0.0%			0.0%			0.0%			0.0%		
二酸化炭素 排出量換算	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	0.0kg-CO2	0.0kg-CO2	0.0kg-CO2	0.0kg-CO2	0.0kg-CO2	0.0kg-CO2	0.0kg-CO2	0.0kg-CO2	0.0kg-CO2	0.0kg-CO2	0.0kg-CO2	0.0kg-CO2
累計	0.0kg-CO2			0.0kg-CO2			0.0kg-CO2			0.0kg-CO2		
手段の 実施状況												
目標値	目標値【2025年度】						目的値【2030年度】					

温室効果ガス排出量チェックシート											課名			
対象ガス ■燃料の燃焼に伴う排出【灯油】 二酸化炭素排出量の削減														
対象機器	対象		数											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
手順 (手段)														
実績	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
累計	0.0%			0.0%			0.0%			0.0%				
二酸化炭素 排出量換算	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
	0.0kg-CO2	0.0kg-CO2	0.0kg-CO2	0.0kg-CO2	0.0kg-CO2	0.0kg-CO2	0.0kg-CO2	0.0kg-CO2	0.0kg-CO2	0.0kg-CO2	0.0kg-CO2	0.0kg-CO2		
累計	0.0kg-CO2			0.0kg-CO2			0.0kg-CO2			0.0kg-CO2				
手段の 実施状況														
目標値	目標値【2025年度】						目的値【2030年度】							

温室効果ガス排出量チェックシート 自動車の走行に伴うメタン・一酸化二窒素の排出																		
車名	車種	用途	使用燃料	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	総計	メタン	一酸化二窒素
軽のぼっかす 1541	軽	貨物	ガソリン													0	0	0
軽トラ 1800	軽	貨物	ガソリン													0	0	0
軽トラ 1801	軽	貨物	ガソリン													0	0	0
軽のぼっかす 4483	軽	貨物	ガソリン													0	0	0
軽のぼっかす 8696	軽	貨物	ガソリン													0	0	0
電気EV 8383	軽	貨物	ガソリン													0	0	0
軽のぼっかす 2079	軽	貨物	ガソリン													0	0	0
軽のぼっかす 7591	軽	貨物	ガソリン													0	0	0
軽のぼっかす 2238	軽	貨物	ガソリン													0	0	0
軽のぼっかす 6189	軽	貨物	ガソリン													0	0	0
軽のぼっかす 6188	軽	貨物	ガソリン													0	0	0
軽のぼっかす 3118	軽	貨物	ガソリン													0	0	0
軽トラ 734	軽	貨物	ガソリン													0	0	0
軽のぼっかす 450	軽	貨物	ガソリン													0	0	0
軽トラ 4090	軽	貨物	ガソリン													0	0	0
ミラ 8690	軽	乗用	ガソリン													0	0	0
軽ワゴンR 4671	軽	乗用	ガソリン													0	0	0
ノア（7人乗り） 6197	小型	乗用	ガソリン													0	0	0
トラック（2 t 輻付） 2279	小型	貨物	ガソリン													0	0	0
ダンプ（2 t） 5264	小型	貨物	軽油													0	0	0
交通指導車 1896	小型	貨物	ガソリン													0	0	0
シエンタ 3563	小型	乗用	ガソリン													0	0	0
エクストレイル 3801	普通	特殊	ガソリン													0	0	0
アクア 1935	小型	乗用	ガソリン													0	0	0
ヴォクシー（7人乗） 4330	小型	乗用	ガソリン													0	0	0
軽のぼっかす 5689	軽	貨物	ガソリン													0	0	0
道路パト 2813	小型	特殊	ガソリン													0	0	0
農林ダンプ 4991	普通	貨物	軽油													0	0	0
ワゴン1（10人乗） 6816	普通	乗用	ガソリン													0	0	0
プリウス（総務課） 7151	普通	乗用	ガソリン													0	0	0
プリウス（歳長車）3986	普通	乗用	ガソリン													0	0	0
水防車 3913	普通	特殊	ガソリン													0	0	0